

佳作

私を成長させてくれたピアノ

福井県 福井市春山小学校五年 福岡 亜悠

わたしは四才からピアノを習っている。習い始めたきっかけは、体験に行った時に、けんばんをひくたびにきれいな音が出て、楽しくてわくわくしたからだ。最初はかんたんな曲なのでどんどん教本が進み、楽しくてしかたがなかった。そして一年ほどがたち、ピアノの発表会に出た。生まれて初めて大勢の前で演そうして、とてもきんちょうしたけれどステージでひくピアノの音はびっくりするぐらいひびいてとてもきれいだった。みんなに大きな拍手をもらいピアニストになった気分だった。

そしてピアノの先生にすすめられてコンクールに出るようになった。教本の練習の時は楽譜どうりにひけたら合かくがもらえて次に進めたのに、コンクールの曲の練習は、音の強弱やフレーズ、アクセント、音の長さの正確さなど様々などころに気をつけ

てひく上に曲の表現力も必要になり、何十回何百回ひいても丸を、もらえなくなった。本番までになんども泣きながら練習したり、くじけそうになったけど先生やお母さんにはげまされて、初コンクールの日をむかえた。夢中になってひき、見事銅賞に入賞し大きなトロフィーと賞状をもらいさらにピアノが好きになった。

そこから五年間、発表会に加えて、年に数回コンクールに出ている。課題曲も年々むずかしく、長くなり、譜読みができてから両手で合わせてひけるようになってからが自分との戦いだ。毎日練習しないと上達しないし、直した所もどってしまふ。だから、遊びたい時も、ねむい時も、つかれている時も、ひきたくないときもピアノにむかう。上達を感じる時の一時間はあつというまだが、上達を感じない時の一時間は長くてつらい。けれど自分で出たいと決めたため、後もどりはできない。夏休み中も自分のピアノの演そうを動画にとって、先生に言われたところが直っているかどうかを確認しまた部分練習を何度もくりかえしていくうちに、上手になったと感じる。次のレッスンで先生に上達したとほめられうれしい気持ちになったしゅん間、次の直す所が出て

きて、ズーンと心が折れそうになる自分をはげます。そして、コンクール直前まであきらめずに練習をする。そのくり返して、どんなこともあきらめないでがんばる力と心が身についてきていると思う。

そして、コンクール当日、曲のふんいきに合わせて選んだドレスを着て自分の出番をまつ。自分の出番がきたしゅん間が一番きんちょうする。それが分からないように笑顔でステージに立つ。ひく時はその曲のイメージがみんなに伝わるように、その曲が好きになってもらえるように心をこめて演そうする。そのしゅん間が私はとても好きだ。

入賞してもしなくても、その日まで積み上げた努力と成長が実感できるピアノが大好きだ。今後もピアノを続けて自信をつけたい。